



第14号



発行所
北海道高等学校
バレーボール専門部
発行責任者 藤原 正
編集責任者 石崎 賢
令和3年3月10日発行

第73回 全日本バレーボール高等学校選手権大会 北海道代表決定戦

期日：令和2年11月12日（木）～14日（土）主催：北海道バレーボール協会他 主管：札幌バレーボール協会
会場：北海道立総合体育センター（きたえーる）



男子優勝 科学大高 準優勝 恵庭南

男子	優勝 科学大高 準優勝 恵庭南	ベスト4	ベスト8	ベスト16		1回戦				
		札幌藻岩	旭川工業	富良野	とわの森	静内	北広島	釧路工業	深川西	
		東海札幌	帯広三条	苫小牧工	あすかぜ	立命館	札幌西陵	室蘭栄	小樽桜陽	
			留萌	函大有斗	北海	天塩	北見緑陵	根室	斜里	
旭川実業	岩緑陵	札幌大谷	滝川	名産剣淵	岩内	遠軽				

優勝 科学大高

準優勝 恵庭南



女子優勝 札山の手 準優勝 帯広南商

女子	優勝 札山の手 準優勝 帯広南商	ベスト4	ベスト8	ベスト16		2回戦				1回戦
		札幌大谷	旭川龍谷	大谷室蘭	札東商	天塩	北海道栄	紋別	静内	下川商業
		旭川実業	北見柏陽	留萌	釧路湖陵	倶知安	国際情報	網走南丘	クラーク	芦別
			啓北商業	帯广大谷	恵庭南	帯広緑陽	旭川明成	富良野	函館大妻	とわの森
札幌北斗	小樽双葉	岩緑陵	札幌白石	函館西	中標津	東海札幌	滝川			

優勝 札山の手

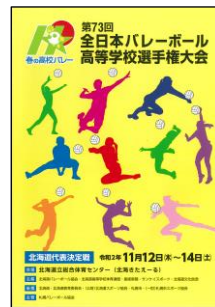
準優勝 帯広南商



コロナ禍の中での大会運営



元日本ハム 田中健介氏



選手権プログラム

新聞記事より

第73回 全日本バレーボール高等学校選手権大会 北海道代表決定戦

長い間のバレー部への指導に感謝申し上げます。

唯一の3年中谷大暴れ

初全道大会。「後輩たちが予選を勝って出てくれた。勝ててうれい」とセンタ

札幌あすかぜ・根室

あすかぜ(25)1910根室

札幌あすかぜV7年ぶりの2度目の出場。前回は連続して初戦突破した。唯一の3年生で札幌地区予選を体調不良で欠場した中谷架成(60)に恩返しするつもりで、小倉から始まったバレー人生で



頼れるコーチが指導

美さん(45)が昨年3月から外部コーチに。78年春部で全国優勝した妹背牛商(09年春閉校)の最後の主将だった北口真奈(30)が今春赴任した。高野コーチは「基本を大事にする」として、北口顧問の力を、北口顧問は「周りを助ける」と話した。

春創部ピカピカの札幌大谷



1初年陣

はるの出場へ「頑張れ」

記者 虎野 虎野

息ヒタリ優勝

エース柴田で、旭川龍谷好発進

加納ツイックス

帯南商準V10年ぶり全国



女子V 札山の手

女子V 3昨年リベンジだ

女子V 帯南商準

女子V 帯南商準

V2次は全国で勝つ



男子V 道科学大高

男子V 恵庭南

3年生最後の全道大会が開催でき、北海道協会・札幌協会の皆さまには感謝申し上げます。顧問の先生方からの「開催してくれて本当にありがとう」の言葉が何よりもうれしかったです。新型コロナウイルス感染症の終息を願うばかりです。

🍡 2019年度大会結果 🍡



◆ 第16回北海道高等学校バレーボール新人大会 開催地：北見市・訓子府町

期日：令和3年2月5日（金）～2月7日（日） 会場：北海道立北見体育センター・北見市立体育センター
サンライフ北見・訓子府町スポーツセンター・留辺薬町体育館

男子		ベスト4	ベスト8	ベスト16			1回戦						
		優勝	第3位	旭川実業	北見緑陵	札幌藻岩	苫小牧工	札幌西	旭川工業	遠 軽			
	恵庭南	科学大高	北 広 島	帯広三条	北見北斗	室 蘭 栄	深 川 西	札幌工業	天 塩				
	準優勝	第4位	函大有斗	斜里網南	富良野	岩 内	静 内	根 室	留 萌				
	東海札幌	岩 緑 陵	とわの森	未来創造	北 海	滝 川	釧路工業	札幌大谷					

女子		ベスト4	ベスト8	ベスト16			2回戦				1回戦		
		優勝	第3位	中 標 津	とわの森	倶 知 安	クラーク	岩 緑 陵	滝 川	東海札幌	帯広大谷		
	札幌大谷	札山の手	帯広緑陽	函館大妻	富良野	羽 幌	啓北商業	芦 別	下川商業	札 東 商			
	準優勝	第4位	旭川大高	遠 軽	北見緑陵	北見柏陽	苫小牧南	網走南丘	旭川龍谷	静 内			
	旭川実業	帯広南商	釧路北陽	小樽双葉	恵庭南	大谷室蘭	天 塩	国際情報	函 館 西	札幌北斗			

男子 優勝 恵庭南 準優勝 東海札幌 第3位 科学大高 第4位 岩見沢緑陵



女子 優勝 札幌大谷 準優勝 旭川実業 第3位 札山の手 第4位 帯広南商



全国高体連関係

第17回2020全日本ジュニアオールスタードリームマッチ

男子 STAR 狩野 照太（とわの森） M A X 芳賀 祐介（札幌北）

女子 STAR 本郷 碧唯（札山の手） O C E A N 廣瀬 美音（札山の手）

男子 M A X 監督 山田 卓也（恵庭南）

以上の皆さんが、北海道を代表して全国で活躍されました。

第18回2021全日本ジュニアオールスタードリームマッチ

男子 選出コーチ 山内 隆宏（北 海）

全国高体連専門部表彰

監督全国大会10回出場 岡本 祐子（旭川実業）10回出場

全国高体連より報告（13号にも記載）

一昨年度より男子の出場枠が1枠となりましたが、前年度を含め3年間（R1～R3）のうちで、加盟校が200校を超えない場合、令和4年の猶予期間を経て、令和5年（北海道インターハイ）より出場枠が1減となります。

2020年度 新MRS 選手数 比較

2018/12/25 現在			2019/12/21 現在			2020/12/21 現在			昨年同時期(12月)比較		
男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
1,846	2,534	4,380	1,787	2,369	4,156	1,626	2,013	3,639	-161	-356	-517



新人大会プログラム

2020年度 新MRS チーム数 比較

2018/12/25 現在			2019/12/21 現在			2020/12/21 現在			昨年同時期(12月)比較		
男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計
114	177	291	116	176	292	111	169	280	-5	-10	-15

🍡 全国大会の結果 🍡

◆ 令和2年度 第73回全日本バレーボール高等学校選手権大会 (春高バレー) 🍡

男子：恵庭南2回戦進出 女子：札山の手、帯広南商2回戦進出

【男子】	1回戦	科学大高	0 (20-25、23-25)	2	松山工業(愛媛)
	1回戦	恵庭南	2 (25-19、25-18)	0	鳥取中央育英(鳥取)
	2回戦	恵庭南	0 (20-25、19-25)	2	慶應義塾(神奈川)
【女子】	1回戦	札山の手	2 (25-22、25-20)	0	西原(沖縄)
	2回戦	札山の手	1 (25-21、21-25、18-25)	2	誠信(愛知)
	2回戦	帯広南商	0 (24-26、16-25)	2	春日部共栄(埼玉)

令和2年度 高等学校9ブロック長身者発掘育成合宿北海道ブロック合宿 指名選手

No.	氏名	学年	身長	学校名	No.	氏名	学年	身長	学校名
1	松下 雅斗	2	194	札幌 藍業	1	眞田 菜羽	2	179	札幌 山の手
2	佐藤 晴斗	1	191	旭川 英工	2	和安 泉	2	178	札幌 幌大
3	喜多田 希輝	2	190	札幌 北札幌	3	安藝 凛	2	176	札幌 北斗
4	山田 祐輝	1	191	札幌 東海	4	皆藤 勝	2	173	札幌 北女
5	竹ヶ原 雅	2	188	札幌 東海	5	藤原 愛	2	175	札幌 北星
6	山崎 虹士郎	2	187	恵庭 恵庭	6	杉上 斐	2	174	札幌 北見
7	大平 涼介	2	188	札幌 東大	7	上田 深	2	174	札幌 幌北
8	星野 恭也	1	187	札幌 学大	8	正木 七	2	173	札幌 旭川
9	増田 周	2	186	札幌 幌大	9	岡田 七	1	171	札幌 旭川
10	咄下 七海	1	185	札幌 科と	10	岡石 彩	2	173	札幌 旭川
11	水嶋 唯	1	185	札幌 科と	11	石川 奈	1	173	札幌 釧路
12	佐々木 聖	2	185	札幌 富良	12	斉藤 花	2	172	札幌 学幌
13	山川 聖	2	185	札幌 富良	13	熊谷 花	2	172	札幌 幌幌
14	小枝 大介	2	182	札幌 東海	14	富森 帆	2	172	札幌 幌幌
15	寺山 大生	2	182	札幌 東留	15	森 帆	1	172	札幌 幌幌
16	宮西 太郎	2	184	札幌 幌藻	16	八木 桃	1	172	札幌 幌幌
17	澤口 恭士郎	2	184	札幌 幌藻	17	飯田 音	2	171	札幌 旭川
18	西村 圭介	2	183	札幌 帯幌	18	八木 彩	2	172	札幌 苫小
19	荒谷 遥	2	181	札幌 北旭	19	岩岡 優	1	171	札幌 帯広
20	石田 隼	2	181	札幌 旭川	20	小峰 華	2	170	札幌 啓北
21	林 海	2	181	札幌 旭川	21	天野 碧	1	170	札幌 幌山
22	柳 森	2	181	札幌 科学	22	今野 鈴	1	167	札幌 旭川
23	和田 玲	2	180	札幌 科東	23	高山 橋	1	159	札幌 旭山
24	小田 黎	2	178	札幌 科学	24	山田 帆	2	155	札幌 幌山

北海道の高校ランキング (高体連バレーボール専門部ホームページより)

The screenshot shows the official website of the Hokkaido Volleyball Specialized Department. It features a navigation menu, a main content area with news and tournament results, and a table of team rankings. The ranking table includes columns for team name, ranking, and other details. A red box highlights the '栄光の記録' (Records of Honor) section, which lists teams with significant achievements.

令和元年度までのランキングを掲載しています。「栄光の記録支部(高校別)」「監督(全道40回以上)」も掲載しましたのでご覧ください。間違え等ございましたら、高体連バレー専門部石崎まで、ご連絡ください。

ishichan@hokkaido-c.ed.jp までお願いいたします。

北から南から

名寄産業高校・剣淵高校合同チーム(男子) 「長期的な合同チームの活動を通して」

名寄産業高校バレーボール部は、前身の名寄光凌高校時代から女子部員のみで活動してきました。平成29年に男子1名が選手として加入、さらに翌年には3名の男子部員が加入し、女子の活動と並行しながら男子チームとしての公式戦参加を模索してきました。2名助っ人を入れてではありますが、令和元年度の高体連名寄支部大会に単独チームとして初参加することができました。

一方、剣淵高校バレーボール部も、創部以来女子チームとして活動してきましたが、平成27年に男子が2名加入し、平成29年には7名、翌年には3名がそれぞれ入部し試合に参加できる人数となりました。公式戦では、平成30年度から名寄支部春季大会・高体連名寄支部大会に単独チームとして参戦し、平成30年度の高等学校選手権大会北海道代表決定戦には、名寄地区男子として7年ぶりの参加を実現させました。

令和元年度の高体連後、名寄産業3人・剣淵高校3人となり、今後の入学生の状況等を踏まえた結果、両校とも単独チームでの出場が厳しいと考え、長期的な視野で活動する合同チームを結成しました。そしてチームの目標を、令和2年度の高体連全道大会出場としました。最初は当然ながらコミュニケーションがうまくとれる訳もなく、休憩時間などにはお互いの学校同士でいることが多かった気がします。11月に選手権大会全道に出場しましたが、まだまだ寄せ集めのチームという域を脱しておらず、何もできないまま敗戦してしまいました。しかし、両校の垣根が少しずつ取り払われ、段々チームらしくなってきたものこの頃でした。春季休業より複数の練習試合を計画し、練習メニューも実践的なものを多く取り入れようとしていた矢先、コロナウイルスの感染拡大により、全ての活動ができなくなってしまいました。高体連も中止となり、何も成果を出せずに終わりにかけていましたが、3年生が選手権まで残ると決め、目標を選手権全道に切り替えました。夏の練習と進路活動を乗り切り、迎えた2回目の全道大会。1回戦からシード校と対戦ということもあり、勝敗よりも自分たちができることをやろうと試合に挑みました。結果は惨敗でしたが、昨年度とは違い、サーブプレシーブも拾える、スパイクも打てる、サービスエースも決めることができました。何よりも、この1年半で合同チームが、単独チームのようになっていたことが大きな成果です。

剣淵は、来年度部活動再編がなされる予定で、バレー部はなくなります。名寄産業も3年生が抜けた後、女子部員もいなくなり、活動休止の状態です。しかし、産業は2年後に名寄高校との統合が決まっており、バレー部の復活と学校全体の部活動の活性化に希望を持っています。この合同チームで生徒から教えられたことを糧に、今後もバレーボールの指導を続けていきたいと思えます。

剣淵は、来年度部活動再編がなされる予定で、バレー部はなくなります。名寄産業も3年生が抜けた後、女子部員もいなくなり、活動休止の状態です。しかし、産業は2年後に名寄高校との統合が決まっており、バレー部の復活と学校全体の部活動の活性化に希望を持っています。この合同チームで生徒から教えられたことを糧に、今後もバレーボールの指導を続けていきたいと思えます。

【名寄産業高校バレーボール部顧問 吉田 拓】



小樽双葉高等学校女子バレーボール部

北から南から

「攻～Fight & Try !!～」



小樽双葉高等学校は、明治40年（1907）9月8日に女子教育機関「小樽実践女学校」として創立、開校式は本願寺小樽別院（浄土真宗本願寺派）において行われ、その後校名変更や男女共学化などの変遷を重ねながら、小樽の町と共に113年の歴史を歩んできました。

現在は、小樽市・札幌市・後志地方・石狩地方からバレーボールをご縁として集まった10名（2年生6名、1年生4名）で活動しており、様々な考え方や性格や経験を持つ選手たちが、その多様性を受け入れられる環境の中で、お互いを補完し励まし合いながら練習に打ち込んでいます。

「攻め抜いて、挑み続けるチーム」を目指す過程で、選手たちには「バレーボールから人生を学んでほしい」と願ってやみません。なぜなら、地道に基礎・基本を繰り返すことは「苦しい時の引き出し」となり、チームのために頑張ることは「孤独ではなく、仲間がいる」ことを知るご縁になり得るからです。その経験が、将来子ども達に何かを教える時の優しい目に繋がってくれるものと思います。

ただ、バレーボールも現代社会も、思い通りにはならないものです。だからこそ、「元気（Fight）を出して、（&）やってみる！！（Try !!）」ことを大切にして、仲間と挑戦し続けた経験と充実感を忘れない「攻める」勇気をもった人間になれるように、これからも報恩謝徳の心をもって丁寧に練習に励んでいきます。

今後も未熟ながら、道内各地のチームに胸をお借りして刺激をいただき、「愛されるチーム」になれるよう成長していきたいと思えます。

小樽双葉高等学校女子バレーボール部
顧問 山階 玲央
顧問 古田 香織



コロナ禍の中での大会運営 札幌協会の取り組み

本年度はコロナの関係で学校がスタートして間もなく臨時休校となり札幌では2か月半にわたり部活動ができない状況でした。6月に入っても2週間は分散登校で部活動も実質6月中旬から再開となりました。札幌協会としては3月の段階で今後の見通しがたかない中、春季大会を開催することを前提に開催要項を発送しましたが申込締切が近づくなか、多くの顧問より開催の有無について問い合わせがあり対応に苦慮しました。春季大会が中止となれば高体連も中止となる可能性が高いと考えたからでしょう。4月中旬に北海道協会よりゴールデンウィーク終了までのすべてのカテゴリーについて、大会中止の要請がなされ、春季大会は中止しました。その後今度は高体連を開催するのかの問い合わせが続きました。4月26日道高体連より、全国大会中止を受けて高体連全道大会・支部大会は中止、代替大会も行わないという発表があり、やむおえず支部大会は中止となりました。札幌協会競技委員会では3年生最後の選手権大会をどのようにして開催するかを検討に入りました。前提としてどうやって実施するか、実施する方向で考えていこうを合言葉に会議を重ね出した結論が、無観客・会場分散・会場は抽選後グループで決定・午前の部午後の部でチームを入れ替える・経費削減などでした。7月下旬に札幌支部の顧問会議を開催し、顧問の先生方にご理解をいただき、その後支部高体連と打ち合わせを行い許可をもらい実施することができました。結果的に何事もなく無事終了することができましたが、この選手権大会の取り組みが札幌支部高体連の会議で高い評価を受けることになりました。11月中旬に選手権全道大会を控え札幌は感染者が急増し、全道大会も無観客、会場入館時間の設定、試合時間の設定、導線の確保、最小限の人員での実施など多くの対策を行いました。最終日も警戒レベルがステージ4になった場合は決勝を行わないことも視野に入れて運営を行いました。その後も感染者の増加が続き、12月予定の新人戦札幌支部予選は全道大会中ではありましたが中止の決定をしました。札幌は大会が過密スケジュールで12月中旬には新人大会の代表者会議が行われます。新人戦の中止後すぐに新人大会地区予選の開催に向けての検討が始まります。しかしながら感染拡大を受け、競技委員会も開催できずメンバーとはメールでの情報交換となりました。委員長・副委員長5名で開催に向け4度ほど会議を行い、結果としてすべての試合を札幌市の区の体育館を使用し実施することにしましたが、予算は大幅にオーバーし参加料を値上げしましたが大きな赤字となりました。高校の体育館を利用する場合多くの部分を会場校に依頼しますが、区の体育館を利用する場合はそのすべてを競技委員で用意することや、区の体育館の使用に当たっての基準などにより人数制限や館内での飲食禁止など多くの対策が必要となりました。しかし高校の体育館を借用する不安定さ（急に使えなくなること）を考えればベストな方法と考えました。大学入試が近いことを考慮し事前に棄権をしたチームもありましたが2月に開催される全道大会（北見大会）に代表を送ることができました。北海道バレーボール協会が主催し実施した全道大会はこの高校の2大会しか本年度はありません。札幌協会についても同様です。来年度以降も対策が必要となることは間違えありませんが平常に戻ったとしても感染対策や会場の確保等については検討が必要と思われる。早期の終息に期待したい。

主な取り組み

1. 無観客で実施する。控え場所も密にならないように確保する。
 2. 組み合わせは例年通りとするが、極力午前・午後に分け密にならないようにする。補助役員もグループ内で実施。（試合順も併せて変更）
 3. 初戦の場合、試合の前に30分の練習時間を確保する。（他のチームの練習は不可）試合後はすぐに帰宅してもらう。
 4. 審判についてもグループ内で実施し、外部からの審判依頼は最小限とする。
 5. 予算については審判をしてくれた顧問への弁当等は廃止。新規に感染予防グッズを整える。
 6. 会場について、選手権は予選グループ戦抽選後そのグループ内で決定し、決勝トーナメント戦はシード校で決めてもらう。新人大会については予選グループ戦の抽選は競技部責任抽選とし会場はすべて区の体育館を使用する。
 7. 保護者より参加同意書を取り、校長に参加の許可（証明書）を提出してもらう。また、健康チェックシートの提出並びに大会当日の検温を実施する。
- ※ その他にも多くの対応を行いました。札幌大会での感染報告がなかったのが幸いでした。詳しい対応を知りたい方はご連絡いただければと思います。